

伝統的建造物群の景観維持を目的とした具体的な活用方法の策定

～呉市御手洗地区を題材として～

広島女学院大学 人間生活学部
生活デザイン学科 鍵山 昌信

参加学生：本学 生活デザイン学科 3年次5名（内、昨年度から継続参加が2名）
呉工業高等専門学校 4年次2名

1. 事業目的

1994年に重要伝統建造物群保存地区に選定された呉市豊町御手洗では2023年3月末に広島市と結ばれるバス路線「とびしまライナー」が廃止になるほど、利用者である地域人口の過疎化が急速に進んでいる。住民なき町は文化財の健全な維持管理の衰退と同意であり、早急に関係人口の回復に対する特効薬的施策を構築する必要がある。

人が離れ生活が無くなると、空き家は増え続ける。とはいえ、生活住民では「活用する」ことのイメージが湧きにくい上に、特に重要建造物群保存地区や有形登録文化財などに選定されていると、修繕に補助金はできるものの、外観を大胆に変更できない等の建築条件があるため、活用されたことが表面化し難い。本活動を通して、少しでも多くの地域住民に空き家の活用方法を共有していく必要があると考える。

本事業は、現在空き家の場所を活用して、新たな地域資源を活かしつつ、新たな働き手の確保・新たなコミュニティ形成につながる場に生まれ変わらせ、人口流出に歯止めをかけるモデルケースを構築するための活動である。

2. 実施方針

本活動は、令和6年度広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業に採択頂いた継続事業である。前回同様に御手洗地区で空き家を活用しながら観光事業を行っている合同会社よーそろ代表・井上氏と協働し、提案側として関わっていく。昨年度事業では、図1に示す観光案内所付近の2つの空き家（①と②）を対象に、学生は空き家活用の実態調査を終え、①は外観の景観形成についての提案段階まで関わり、②は工事中的内装や外部のウッドデッキの塗装にワークショップ形式で関わること（図3）ができた。

②サウナは令和7年2月に無事オープンし、①は令和7年3月にその外観の修景工事を無事に終えることができ



図1-御手洗地区の本事業で対象とする空き家



図2-昨年度の活動の様子（ワークショップ）

(図 3, 4)、今年度はいよいよ①の内部の提案に移行する。参加学生は、まず現状がらんだ①の空き家に対し、新事業に活用するための現状の問題点を観察・整理する。また井上氏から新たな場づくりの展望などをヒアリングしていき、その内容と建築士課程で学んだ知識を活用し、活用計画の立案を地域や事業者にプレゼンし、改修実行(できれば工事中にワークショップ的に施工にも携わる)まで携わる。

また、広島には建築やインテリアを学ぶ学科をもつ大学・高専・専門学校がたくさん存在するが、この活動をより横連携させることで、同じ問題意識をもつ学生同士の情報交換や体験共有の場へと昇華させていくことを考える。延いては、学生間で共有したその体験が、同じ問題を抱える各地域へ波及し、地域力増進の強力な助っ人となり得る未来を創りたい。



図 3-サウナ新地鼻の現在



図 4-ジェラート新地鼻の現在

3. 活動内容

- 9/26(金)：対象物件(2024 年度案件)の実測調査・図面化
 - ・合同会社よーそろの井上さんから改めて新メンバーへレクチャーを受ける
 - ・2024 年度事業にて関わった対象案件の内見、実測調査



図 5-改善する壁の現状

- 10/18(土)：活動発表①御手洗での活動を東区イベント内で展示
 - ・2024 年度からの取り組みを大学のある東区のイベントで展示



⇒「ジェラート屋」の内装デザインを提案することが決定

- ・劣化の著しい北側の内壁面の補修とデザインを考えることに決まる。(図5)
- ・スケジュールの確認
- ・重要伝統建造物群保存地区での制約や規程などを確認

⇒井上さんに提案するための内装デザイン立案作成作業に着手

●11/08(土)：デザイン案を井上さんに提案(図6)

- ・作成したデザイン案を合同会社よーそろへプレゼン
- ・新たな方向性についてのフィードバックをもらう
- ・再度提案の練り直し



図6-11/08時のデザイン提案図

⇒他物件の活用案件のレクチャーを受ける(図7)

- ・御手洗地区での現状や問題意識についてを説明
- ・空き家を改修する際の注意点などを共有
- ・地域の事業の生まれ方や人の関わり方などを説明

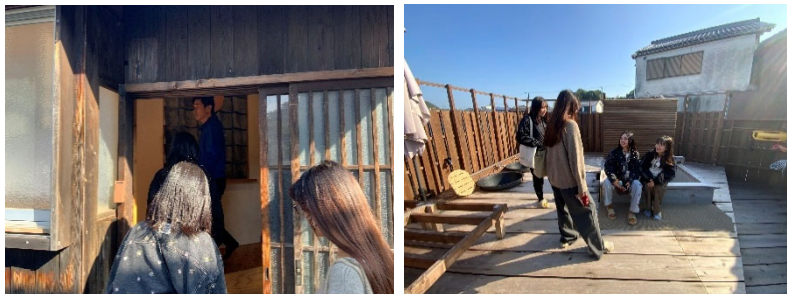


図7-レクチャーの様子

●11/14(金)：提案するデザインに必要な設備をもつ広島の業者

「SSCa」さんと協議・デザイン打合せ

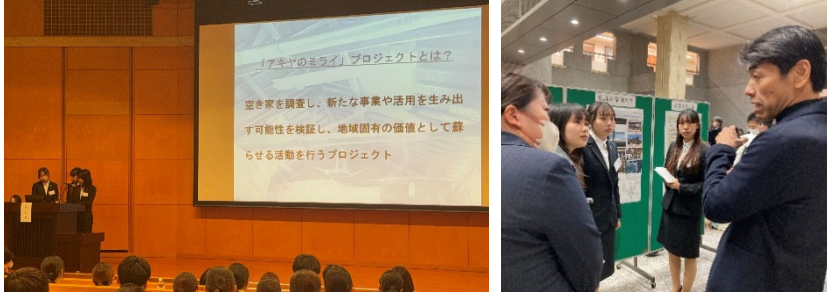
- ・SSCaの稲垣さんに製作するの必要な設備や製作可能範囲などを視察
- ・デザイン案を持ち込み、実現可能性を一緒に検討した。
- ・再度対面打合せを1月とし、それまではオンラインなどで随時



●11/29(土)：活動発表②

広島学生地域連携活動報告会（県立広島大学で開催）で
活動内容を発表

- ・御手洗での空き家活用についての活動を発表
- ・展示パネルによるパネルディスカッション
- ・空き家活用に興味のある企業様や団体様と意見交換



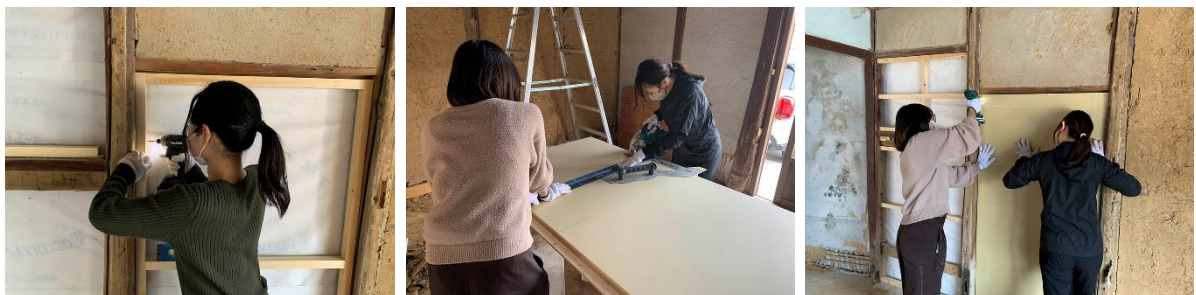
●1/17(土)壁の下地づくり・天井の整備①

- ・まずは劣化の著しい部分に下地から新たに壁を補修する。
 - ① 抜けてしまっている壁は下地を組み、ボードを貼って土壁を復旧
 - ② 砂壁や新聞紙など、貼られてる余分なものはケレンで掻き落とす
- ・また、昔の住人が（おそらく防寒のために）船底天井の表面に貼っていた紙がボロボロだったので剥いで再塗装する。



●2/6(金)：壁の下地づくり・天井の整備②

- ・引き続き、壁の下地作りと天井の清掃、整備を行う。
- ・壁は丁寧に現場を採寸しながら下地を組んでいき、石膏ボードを貼っていく。



●2/9(月)：広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業 活動報告会

- ・協議会に参加し、活動を報告させて頂く

●2/18(水)：壁の下地づくり・天井の整備③

- ・引き続き、壁の下地作りと天井の清掃、整備を行う。
→石膏ボードの設置完了。
- ・船底天井に木材保護塗料を塗布
- ・ビスの頭をパテ処理→続けて次回のタイミングで土壁を設置していく。(来年度以降)



図7-壁の下地完了

●2/20(金)：広島大学の学生の活動報告と意見交換

- ・2024年度～2025年度の活動報告と現場の視察／説明を広島大学の学生及び都市計画研究室の教員へ実施する。「どうしたら御手洗が継続しつづけられるか」というテーマで意見交換。



ジェラート工房の壁の劣化部分の改善および下地作りが終了し、春休みに入った3月に引き続き土壁の施工を実施して、今年度は終了予定。

4. 事業実施による成果・効果

今回の事業を通して以下のような効果が得られた。

- ①次年度の参加学生にも、大学内では現実味の薄い「空き家」「高齢化」などの社会問題と伝統建築物の改修の問題点等に直面させることで、明らかに学生の意識変化が窺えた。
- ②学生が中心となり活用案を立案・改修作業への参画をすることで、文化的価値のある地域への若者の興味・関心を向上させ、地域住人や企業との関りが持てた。建築の専門的な見解や規程にも触れることができた。
- ③昨年同様に地域住人の人や観光客に作業中も多く話掛けてくださり、これからもどんどん積極的に関わってほしいとの声を頂いた。
- ④2/20(金)では広島大学の田中貴宏教授率いる建築学生6名と同じ年代同士、地域課題を共有し、都市計画の観点から課題やこれからの活用方法などの意見交換ができた。